

株式会社大和証券グループ本社 (2018 年グリーンボンド)

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2021 年 11 月 18 日

担当者：

Kosuke Kanematsu, kosuke.kanematsu@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

はじめに

2018 年 11 月、株式会社大和証券グループ本社（以下、「大和証券グループ本社」あるいは「同社」）は再生可能エネルギー、及びグリーンビルディングに関連するプロジェクトへのファイナンス又はファイナンスを目的とするグリーンボンドを発行しました（以下、「グリーンボンド」）。2021 年 6 月 30 日時点において、調達資金は 5 件の再生可能エネルギーとグリーンビルディングに係るプロジェクトに充当されました。2021 年 11 月、大和証券グループ本社はサステナビリティクスにグリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトが大和証券グループ本社グリーンボンドフレームワーク（以下、「フレームワーク」）¹ で設定された資金使途のクライテリアやレポーティングの指標に合致しているかについて評価を委託しました。本レビューは、2020 年 11 月に行ったサステナビリティクスによる大和証券グループ本社のグリーンボンドに対するレビューに続く、3 回目のレビューとなります²。

評価基準

サステナビリティクスは、以下の要件について、2018 年 11 月から 2021 年 6 月の間に調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対する主要業績評価指標（KPI）に関する報告

充当を受けた調達資金の使途のカテゴリーに対する適格クライテリア及び関連する KPI を表 1 に示します。

表 1：調達資金の使途、適格クライテリア及び主要業績評価指標（KPI）

調達資金の使途	適格クライテリア	主要業績評価指標 (KPI)
再生可能エネルギー	<p>再生可能エネルギー発電プロジェクトに対し、大和エネルギー・インフラ株式会社（以下「DEI」と言います）を通じて実施する投融資であって、以下のクライテリアに適合するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー発電プロジェクト（関係会社が発行するプロジェクトを含む）の開発、建設、運営に関連する支出。適格プロジェクトは、太陽光発電、風力発電、地熱発電、水力発電（発電容量が20MWを超える大型のものを除く） 	<ul style="list-style-type: none"> 適格グリーンプロジェクトによって削減される CO₂ 排出量（理論値） 適格グリーンプロジェクトの発電量（出力規格に基づく理論値）

¹ 大和証券グループ本社グリーンボンドフレームワークの概要は、サステナビリティクスのセカンドパーティ・オピニオン内でご覧頂けます：
https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/daiwa-securities-group-green-bond-framework-overview_spo_japanese_final.pdf?sfvrsn=c71f5c8d_3

² サステナビリティクスによる大和証券グループ本社のグリーンボンドの過去のアニュアルレビューは以下よりご覧頂けます：

アニュアルレビュー（2019 年 11 月）

https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/daiwa-securities-group-green-bond-annual-review-22112019-japanese.pdf?sfvrsn=a1ef3720_3

アニュアルレビュー（2020 年 11 月）

https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/daiwa-securities-group-green-bond-annual-review-japanese.pdf?sfvrsn=9f192680_3

	<p>く)、バイオマス発電（廃棄物由来のバイオマス資源）であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> リファイナンスの場合、グリーンボンド発行日から遡って24カ月以内に資金が充当されたプロジェクトであること。 <p>充当の流れ 再生可能エネルギー発電プロジェクト 1 件ごとに特別目的会社（SPV）を設立し、DEI が各SPV に投資又は融資を行います。資金の使途は、上記の再生可能エネルギー関連の支出に限られます。</p>	
グリーンビルディング	<p>大和証券グループ本社もしくは大和プロパティ株式会社³又はその両方が実施するグリーンビルディングの建設や、既存の建造物をグリーンビルディングに転換するための改修に関わる支出。グリーンビルディングとは、以下のクライテリアに適合した建造物とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> グリーンボンドの発行日から遡って24カ月以内に、信頼できる第三者機関の認証において、上位3段階までの認証を取得している建築物、もしくは発行日以降に当該認証を取得すると見込まれる建築物、又はその両方に該当する建築物。 <ul style="list-style-type: none"> DBJ Green Building 認証の3つ星、4つ星、5つ星 CASBEE の B+ランク、A ランク、S ランク 	<ul style="list-style-type: none"> 建設中は、不動産認証申請の進捗状況 竣工後は、以下の環境影響指標 <ul style="list-style-type: none"> エネルギー使用量 (J/kl) 用途別エネルギー使用量 (%) CO₂ 排出量 (t) 水使用量 (m³) 廃棄物発生量 (kg) リサイクル率 (%) 認証のレベル

発行体の責任

大和証券グループ本社は、プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、大和証券グループ本社のグリーンボンドによる調達資金の使途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、大和証券グループ本社の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、調査にあたって、対象プロジェクトに関して大和証券グループ本社から提示された情報と事実とに依拠しています。大和証券グループ本社が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

³ 大和プロパティ株式会社は、吸収合併に伴って 2020 年 10 月 1 日付で消滅しています。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果⁴、すべての重要な側面において、大和証券グループ本社のグリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、フレームワークで規定された調達資金の用途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。2020年11月に大和証券グループ本社はサステナリティクスに対し、グリーンボンドの調達資金が全額充当されたことを開示したものの、大和証券グループ本社のプロジェクト・ポートフォリオの内訳が更新されました。サステナリティクスは、2021年11月に再度レビューを実施し、大和証券グループ本社はサステナリティクスに対し、2021年6月30日時点において、調達資金が適格な再生可能エネルギープロジェクトに再充当され、引き続き調達資金が全額充当されていることを確認しています。

⁴ サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

適格クライテリア	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途クライテリア	2018 年 11 月から 2021 年 6 月の間にグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、フレームワーク及び上の表 1 に示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	<p>審査したすべてのプロジェクトは資金使途クライテリアに適合していました。</p> <p>サステナビリティクスは、審査対象となったグリーンビルディングプロジェクトが DBJ Green Building Certification のプラン認証を取得しており、建設後の認証を取得する予定がないことを認識していません。本フレームワークでは、DBJ Green Building 認証の種類は言及されていないことから、サステナビリティクスは、これを過失や例外と見解しませんが、環境改善効果の信頼性を考慮すると、大和証券グループが建設後の認証を取得することを推奨します。</p>	該当なし
レポーティングクライテリア	2018 年 11 月から 2021 年 6 月の間にグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがフレームワーク及び上の表 1 に示されている KPI と適合する形で報告されたかを検証。報告された KPI の一覧は参考資料 2 を参照。	<p>審査したすべてのプロジェクトにおいて、各資金使途クライテリアに対する KPI が報告されていました。</p>	<p>該当なし</p> <p>尚、資金充当されたグリーンビルディングプロジェクト 1 件は、レポーティングの基準日と同日の 2021 年 6 月 30 日に竣工しています。本フレームワークは、グリーンビルディングカテゴリにおいて、竣工後の物件については、環境影響指標を報告することを定めていますが、基準日時点では、当該物件に関して各報告指標の実績値がない為、今回のインパクト・レポーティングでは、不動産認証申請の進捗状況のみ報告しています。</p>

参考資料

参考資料 1：グリーンボンドの調達資金の充当状況

調達資金の用途のカテゴリー	サブカテゴリー	プロジェクト数	調達資金の充当額 (億円) ⁵
再生可能エネルギー	太陽光	4 ⁶	80
グリーンビルディング	—	1 ⁷	20
充当額合計：			100
未充当額合計：			0
グリーンボンド発行による調達額（手取り金）合計：			100

⁵ 億円未満を四捨五入で表示しています。

⁶ サステナリティクスは、全 4 プロジェクトがグリーンボンドの発行後にファイナンス又は、グリーンボンド発行日から遡って 24 カ月以内にリファイナンスされたプロジェクトであることを確認しました。

⁷ 当該プロジェクトは、グリーンボンドの発行後に DBJ Green Building 認証のプラン認証の 5 つ星を取得しています。

参考資料 2 : プロジェクトのインパクト一覧

調達資金の用途のカテゴリ-1 - 再生可能エネルギー

#	サブ カテゴリー	年間 CO ₂ 排出削減量 (t-CO ₂)	年間発電量 (MWh)
1	太陽光発電	15,876	34,740
2	太陽光発電	2,544	5,566
3	太陽光発電	17,872	39,107
4	太陽光発電	16,542	36,198
	Total	52,834	115,611

調達資金の用途のカテゴリ-2 - グリーンビルディング

プロジェクト 状況	不動産認証申請の進捗状況	環境影響指標 ⁸
2021年6月30日 に竣工	DBJ Green Building 認証のプラン認 証で5つ星を取得。	該当なし

⁸ 当該グリーンビルディングプロジェクト1件は、レポートिंगの基準日と同日の2021年6月30日に竣工しております。大和証券グループ本社は本フレームワークにおいて、竣工後の物件については、環境影響指標を報告することを定めていますが、基準日時点では、当該物件に関して各報告指標の実績値がない為、今回のインパクト・レポートングでは、不動産認証申請の進捗状況のみ報告しております。大和証券グループ本社は、来年以降のインパクト・レポートングにおいて、当該物件の環境影響指標を報告する予定です。

免責事項

© Sustainalytics 2021 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステイナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステイナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時時点のサステイナリティクスの意見を反映しています。サステイナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

英語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先されるものとします。

サステイナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステイナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。ESG及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、多国籍企業や金融機関、各国政府を含む世界の主要な発行体に、グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドのフレームワークに対する信頼性の高いセカンドパーティ・オピニオンを提供しています。2020年には、Climate Bonds Initiativeにより、3年連続で「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれたほか、Environmental Finance誌により、2年連続で「最大の外部レビュー機関」に認定されました。詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照ください。

